

# 初任者研修

研修所で行う研修  
(第8回)

# リフレクション通信

兵庫県立教育研修所

今年度最後の研修となる第8回は、まず、「1年目のまとめと次年度に向けた課題の整理」を行いました。1年間の研修を振り返り、授業づくりにおける自身の成果と課題をマンダラシートに整理しました。「児童生徒や保護者からの信頼確保に向けて③」の演習では、全県校外研修（第2回）の講義を踏まえ、非違行為に関する事例について、その要因や未然に防ぐ対策を協議しました。最後には、初任研の締めくくりとして、教務部長の「学び続ける教員になるために①」の講話を聴き、今後の教員としての展望を一人一人が思い描きました。

## 小・中学校共通

### 【1年目のまとめと次年度に向けた課題の整理】

#### ○研修に向けて

- 1年間の自分の実践を振り返ると、授業構成や子どもとの関わり方について課題が多くあります。例えば、子どもの意見を引き出す発問ができていたか、子どもが内容を理解するのにわかりやすい教材や教具を活用できていたか、トラブルが発生したときに適切な対応ができていたか等です。課題を整理し、来年度の実践に生かすことができるよう、丁寧に振り返りたいです。
- この1年は、ただただ毎日を過ごしていくのに必死で、先を見て行動するということがあまりできませんでした。他の先生方からいろいろなことを教えてもらっていると、「これは4月にやっておく方がいいのだけど」という言葉をかけられることがありました。しかし、来年度の4月に、新しいクラスで実際にどんなことをしておかなければならないのか、まだ具体的に分かっていません。そのため、1年を振り返る中で、整理をしたいと思います。
- 授業実践研修を含めた初任者研修を通して、この1年で多くのことを学ぶことができました。例えば、問題が発生した場合には、複数人対応・管理職への報告・保護者への連絡等、初めはどのように対処すべきか分からなかったことも、「このようにして指導していこう」という、ある程度の筋道が想定できるようになりました。一方で、4月からの研修であるため、忘れてしまっていることもあると思います。今回の研修で振り返り、次年度に向けた課題を整理したいです。
- 本年度の総括を自分なりにしたいです。自分の良かったところを見つけ、自覚するとともに、良くなかったところは改善していく方法を考え、来年度の課題は何かを明確にしていきたいです。そうすることで、来年度の自分がどのような教員になっていくべきなのかが見えてくるとと思います。本年度の初任者研修を終えて、来年度の2年次研修をどのように行っていけばよいのかを整理したいです。

## ○研修の振り返り

- マンダラチャートは、初めて見るまとめ方でしたが、クラスでも活用してみたいと思いました。自分に足りないことはまだまだありますが、その中でも来年度、力を入れて取り組みたいのは発問です。今年度はあまり補助発問ができず、授業の流れが止まったときに自分が噛み砕いて説明することで何とかしようとしてしまうことが多くありました。私の説明で納得する顔をする子どももいましたが、来年度は、流れが止まったときにこそ、発問で問い返していけるような授業を展開していきたいです。そのために、今年度は、あまりできていなかった授業記録を取ったり、先輩の先生方の実践を拝見したりして学びたいです。来年度は授業実践研修で授業をさせていただきます。更に補助発問のスキルが向上するのではないかと有り難く感じています。成長できるよう、努力していきたいです。
- たくさん学んできたことを、なかなか自分では振り返る機会がなかったので、今日のような時間を使って、同期のみんなと振り返ることができたのはとても有意義でした。振り返る中で、自分自身がこの1年で取り組めたことや課題と気づくことが見えてきて、来年度以降はさらに頑張ろうと刺激を受けました。学級経営だけでなく、授業づくりの面でも、来年度はさらに成長したいです。
- マンダラチャートを使い、自分の課題や成果についてまとめました。振り返りをするということは、自分の学びを言語化し、再確認する良い機会であり、その重要性にも気づくことができました。自分の授業の中でも振り返りができないことが多く、できても時間が少ししかないということもあったので、振り返りを授業の中にしっかりと位置付け、自分の授業の客観的な評価資料として、生かしていけるよう頑張りたいと思います。
- マンダラチャートを活用した振り返りを行いました。自分の考えを言語化することで、意識することができ、より良い教員になるための課題を見出すことができました。教員生活1年目で、右も左も分からない状況でのスタートでしたが、研修をきっかけに自身の資質も少しは高まったと感じます。今後の課題として、授業のめあてのつくり方と発問の仕方の引き出しを増やしていきたいです。1年間の研修で得た成果を、記録として残しておこうと思います。

## 小・中学校共通

### 【防災教育の実践交流】

#### ○研修に向けて

- 家庭で防災について話し合ったり、メディアで防災特集を観たりすることはありましたが、子どもに伝えるという視点で防災について考えたことがありませんでした。災害の悲惨さだけを伝えるのではなく、自分を守る術や人とつながって支え合う必要性等も伝えられるように学びたいです。
- 防災教育はなかなか授業の中で取り入れていくことが難しく、訓練時や道徳科でそのような教材が出てきた時にしか触れられていません。その時は子どもが学べたり、子どもに響いたりしても、思いや考えが継続しているのか不安です。他の先生がどのような方法で実践しているのかを学びたいです。
- 防災教育については、私自身が体験したことがないので、どれくらい子どもに防災の大切さや災害の怖さを伝えられるのか少し不安です。子どもにしっかりと伝えるために、自分自身が今できることとして、体験された方の話を聞いたり、防災センターに行って模擬体験をしたりして、学ぶことが大切だと思います。

- オンライン研修で、東北の被災地とつながって、当時の貴重な話を聞くことができました。特に被災時における学校の役割や状況を設定したロールプレイングを通して、いつかは分からないですが、近い未来に起こる日に向けて、自分事として考える必要があると強く思いました。自然災害は食い止められないですが、その後の対応はできると思います。グループのみんながどのような防災研修を受けたのか、話を聞いて、学びを深めたいと考えています。

## ○研修の振り返り

- 他の先生方の防災教育の実践を聞いて、より子どもの心に残る授業をすることが大切だと感じました。災害が起こった時は、正常な思考、判断ができません。そんな状況でも、子どもが自分の命を守れるように、考えなくても行動できるくらいにならなくてはなりません。そのためには、逃げる時の姿勢やルートをこまめに確認したり、場面ごとの正しい行動を考えたり、活動も取り入れながら防災の大切さについて伝えていく必要があることを学びました。
- 防災教育について体験したことをグループで話し合う中で、防災教育の重要さを感じました。子ども一人一人の命を守っていくことができるように、少しずつでも教員が防災について意識しながら投げかけたり、身を守る方法を伝え続けたりしながら、いつ起こるか分からない自然災害に備えていかなければならないと感じました。防災の授業や避難訓練の時だけに限らず、朝の会等でも、具体的な場面での身の守り方を考える時間をつくったり、防災に対する意識付けを行ったりしていきたいです。実際に起こった時に、子どもが自分自身で考えて行動し、自分の命を守ることができるように、言葉や態度を通して伝え続けたいと思いました。そのためには、私自身も防災について積極的に学び続け、子どもの命を守れる力を付けていかなければいけないと思いました。
- 今回の防災に関する研修を通して、自然災害の脅威・防災教育の重要性を実感しました。今後、自分自身としては、近い将来に学校が避難所になり得るということを踏まえて、東日本大震災の事例等を見ておく必要があると思いました。また、子どもに対しては、自然災害はいつ起きるか分からないし、今ある当たり前が当たり前でなくなるかもしれないということを、「語りかける目」等の教材を通して伝えたいと思います。特に、私は大きな震災を経験していないため、このような教材や資料映像を効果的に使っていくことが子どもの学びにつながると感じました。
- 災害に対する自分自身の知識や意識をさらに高めなければいけないと思いました。災害については校区に断層が通っていたり、水害に関してもハザードマップを確認すると、浸水想定地域が市内に広がっていたりします。「いつ何時起こってもおかしくない」ということを念頭に、人任せにせず、子どもの命を守るための行動ができるようにならなければいけないと思いました。また、子どもにも自分の命を守るための行動がとれるように、知識をつけたり災害を想定した学習をしたりしていかなければいけないと思いました。具体的な場面を示しながら考えたり、話し合ったりし、実際の場面で行動できる力を付けたいと思いました。

#### ○研修に向けて

- 非違行為について、どこか他人事のように感じている部分もありましたが、自分が加害者になってしまうかもしれないという意識を持ちながら気を引き締めたいです。また、自分が加害者にも被害者にもならないために、どのようなことに気を付けなければならないのかを学びたいです。
- 自分が加害者にならないために、教員として気を付けるべきことを再確認したいです。自分事として考えて、今の自分の生活や勤務内容について見つめ直したいと思います。また、職場内で何かが起こる前に、自分にできることはないかを考える機会にもなると思います。学校で何かが起こった時の対応の仕方や、未然防止をするために大切なことについても学びたいです。
- 児童生徒や保護者からの信頼確保は常に必要です。そのためには、どのように接するか、どのような指導が必要であるかを明確にしたいと思います。その際に、相手の立場になって考えることも必要であると思うので、詳しく学びたいです。
- 以前の講義で、非違行為によって処分された教職員の総数を見て、改めて自分自身もっと自覚しなくてはならないと痛感しました。今の自分とストレス等、マイナスな心理に陥った時の自分とを客観的に比較してくれる周囲の人の存在をつくっておこうと思いました。また、子どもに対しても、行動には様々な原因があって、表層的な部分で判断してしまわないように注意する必要があることを学びました。研修の中で、以前提示された事例に対して、どのように考えているのか、他の先生方からも学びたいです。

#### ○研修の振り返り

- 氷山モデルで、見えない部分を見るという作業は生徒指導の際にも使えると思いました。起きた出来事の原因や背景を考えると、具体的な対応策もたてやすくなりました。その人の背景を想像して、寄り添うことの大切さを感じました。「この人がいるから非違行為をやめないといけない」「この人の信頼を失いたくない」と思えるほどの濃い人間関係を築く必要があると思いました。
- 非違行為の事実のみ受け止めるのではなく、そこに隠れている原因・要因や、それに対する対応策を考える活動を通して、見えにくいものに目を向けるということの重要性を感じました。生徒指導でも問題行動のみに目を向けるのではなく、その背景に目を向け、指導できるようにしたいです。
- 事例を基に原因と未然防止の対策を考えましたが、「子どもを守るために」という視点を忘れてはならないと思いました。他の先生のことだからと我関せずの態度を取るのではなく、同じ子どもを見守る立場として行動すべきだと考えました。またこのような事例は、自分自身にとって全く無関係ではないので、今日の協議で出た「相談すること」や「別の方法で発散する」等を実践していきたいです。
- 事例を基に検討し、日頃から教員同士で気を配り合い、コミュニケーションを図ることが大事だと思いました。私自身、今の環境で複数の先生が、気にかけてくださることが多く、その度に温かい気持ちになり、自分自身が今、どのように見られているのか（しんどそうなのか、ゆとりがあるのか）客観的な視点で自分を見つめ直す機会にもなっています。

### 【学び続ける教員になるために①】

#### ○研修に向けて

- 学び続ける教員でありたいし、学ぶことは楽しいと思いますが、なかなか余裕がなく、思うような学び続ける教員になれていないというのが現状です。学び続ける教員であるために、どんなことから取り組むべきなのか、優先順位等も考えたいと思います。
- これから教員を続けていく上で、自分自身が学び続けるというのは必要不可欠であると考えています。授業面はもちろんですが、変わりゆく社会の中で生きていく子どもを育成すると考えたときに、さまざまな面からアプローチしていく必要があります。そのためには自分自身が学び、それを子どもに還元していけるような教員になりたいです。なかなか先輩方の話をゆっくり聞いたり、自分自身のことを話したりする機会がないので、しっかり学びたいです。
- 自己研鑽し、努力し続けること、この歩みを止めた時に教員としての成長も止まってしまうのだと思います。自分が現場で、また、本を開いて、という学びの方法もあります。共に学べる仲間や先輩の存在は、「学び続けられる環境」という点においては重要だと思います。周りの先生方の取組等も参考にさせていただき、自分の中に取り入れられるようにしたいです。
- 私自身、学ぶことは嫌いではないので、教養の本をよく読みますが、時間に追われて、なかなか時間がとれません。子どもに「学ぶ大切さを教える、手本になる」という意味も込めて、「学び続ける教員」になりたいと思っているので、先輩方がどのように時間をつくっているのか、どのように学び続けているのか、お話を聞きたいです。

#### ○研修の振り返り

- 自分ができることや得意なことを見つけて、それらを生かしながら子どもや保護者と関わることが大切だと学びました。ここから長い教員生活が始まるので、たくさん失敗をしたり落ち込んだりすることもあると思いますが、その都度、自分のペースで立ち直りながらレジリエントな教員になれるように日々成長していきたいと思いました。レジリエンスを高めて、学び続ける姿勢を大切にしたいと思います。
- 4つの観点でレジリエンスについて考え、今後それらを意識して教員生活を送っていこうと思いました。1年が終わり、自分自身の課題を知って、目標を立てて毎日コツコツ実践、反省、改善をしていきたいと思います。「教員は失敗や後悔をして成長する」という言葉を聞いて、今日学んだレジリエンスを意識しながら、教員生活を送っていききたいと思います。
- 長く働き続けるには様々な要因が必要で、それを構築していくことが大切なのだと分かりました。特に、私は「自分のウェルビーイングを大切にすること」を意識したいです。教員というのは精神をすり減らして子どもに接するものだとどこかで聞いたことがありますが、先に自分の身体や精神を壊してしまったら周りにも迷惑をかけることになりかねません。自分自身の健康を大事にしながら、その中で学び続け、がんばっていこうと思いました。
- 印象に残ったのは、「子どもを分かろうとした」という言葉です。子どもがどのようなものを背負っているかわからないまま接するのではなく、目の前にいる子どもに、どれだけ寄り添い、理解しようとするかが大切だと思いました。これから教員生活は長く続きますが、がんばり過ぎずに適度に息を抜き、精神的にも身体的にも余裕のある素晴らしい教員生活を楽しまたいです。